



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

HARMACY NEWSBREAK

薬経連 基本料と薬学管理料の一元化提言、全ての加算廃止も

中小薬局の経営者でつくる保険薬局経営者連合会（薬経連、山村真一会長）と薬経連系シンクタンクの薬事政策研究所（薬研）は12日、次期調剤報酬改定に関する政策提言を発表した。調剤基本料と薬学管理料を一元化し、加算を全て廃止。調剤料を薬価×係数で算出する形に変え、調剤報酬体系を簡素化しよう提言した。



【写真】 記者会見する薬経連の執行部

具体的には、調剤料は「基本料 α +薬価 $\times\beta$ 」とし、同一の処方箋なら、どの薬局でも薬価以外は報酬に差がつかない仕組みにすることを求めた。この場合、薬局に高い薬価の医薬品を採用するインセンティブが働くが、患者の自己負担額に直接反映されるため、患者主導で薬価を抑えられるとしている。係数の α 、 β はその時々状況によって変動させる。

このほか、医薬品ごとに保険給付率を変動させることを提言。かかりつけ薬局の制度化に向け、患者がかかりつけ薬局を選択した場合、その薬局で調剤を受けた場合とそれ以外の薬局で調剤を受けた場合とで保険給付率に10%の差をつけることも提言した。

報酬体系に関して、「算定要件を満たすための競争になっていて、自分の薬局に来てもらうための競争になっていない」と指摘。この計算式に入れて出てくる報酬額と、実際の報酬額とでは大きな開きがないとし、「2年ごとに（調剤報酬の点数の変更などで）振り回されるくらいなら、（この計算式に）固定してしまったほうがいい」と強調した。

薬経連は3年前にも調剤報酬の簡素化を提言しているが、2016年度改定に向けた議論が本格化するのを前に、協力薬局を対象に調査した新たなデータを基に、あらためて簡素化の必要性を打ち出した。